老水兵のつぶやき（日本の国柄・アイデンティティ）

武田　壽一

昭和４０年代前半の高校時代、天皇陛下が我が母校に行幸し剣道部をご視察されるという話が持ち上がり、その準備のため小さな高台にある母校への道が急遽舗装されたり、陛下のお立ち台が整備されるなど大騒ぎとなった。筆者の母校は、県下一の進学校であったし今でも多分その筈である。加えて、第１回中学校野球大会準優勝校であった野球部はその後も時折甲子園に出場し準々決勝にまで駒を進めたこともあった。また、ラグビー部も全国に名を馳せる秋田工業高校を時折破り花園（全国大会）に出場するなど運動部は進学校らしかぬ強さであったが、当時は剣道部が抜きん出て強く、インターハイ、国体などで次々と優勝したため、文武両道の高校として俄然注目されたものと思われる。筆者は、古い言い方をすればノンポリであって右翼でも左翼でもなかったが、行幸時、お立ち台上の陛下に対して教職員及び学生で万歳をするとのことであったため、当時の高校生のご多分に漏れず無用に反発・憤激しボイコットしようかなどと思い、口にも出したものであった。たまたま十勝沖地震が発生し行幸は急遽取り止めとなったが、今から考えれば汗顔の至りである。もし行幸された陛下に対して若気の至りとはいえ、何かしでかしていたら一生悔いていただろうし、このような文を認めることもなかっただろうと思う。

さて、維新以降先の大戦に敗れるまで、天皇は大日本帝国唯一の主権者であり、国民はすべて天皇の臣（民草）であった。さらに、神武東征の故事に則り帝国陸海軍は大元帥たる天皇にご親率賜る軍隊であり、男子皇族は日嗣の皇子たる皇太子を除きすべて軍務に就かれるなど正に皇軍としてまた国家の主柱として確固不動の名誉ある地位を有していた。この時代、我が国柄・国体とは天皇そのものであり、天皇御一人こそが大日本帝国そのものであったとも言えよう。軍の忠誠は天皇に集約され、天皇の臣たる臣民が命を投げ出してお国の

ために尽くすことは名誉でありまた疑いようのない当然の責務でもあった。

敗戦後の日本は、一転して占領憲法の下、象徴天皇制と主権在民の世となり、戦前の価値観のほとんどはすべて否定されることとなる。占領終期、海上自衛隊の前身である海上警備隊の創設と時を同じくして生を受けた筆者は、防衛大学校を経て海上自衛官となり、いつしか自らの歩みが海上自衛隊と共にあることを強く意識するようになった。海上自衛隊を精強にまた健全な組織とすることが自らに与えられた天命であり、自身をも高める道であると信ずるようになったのである。そのような意識の元、警察予備隊創設と海上保安庁の強化を嚆矢とする自衛隊の出自に関心を持ち、諸外国の軍隊は元より戦前の軍隊にも深く関心を寄せるようになったのはある意味当然であったのかもしれない。その脈絡の中で、軍や国民の忠誠と敬慕の対象であった天皇の存在を意識し様々な資料等に目を通すにつれ、我が国の国柄、或いは国のアイデンティティというものに天皇の存在が深くかかわっていることに気付いたのである。価値観が際限もなく多様化し、混迷する政治とともに国家そのものが漂流している観のある我が国にとって、不動の価値観、国民が寄り添うべき最大の倫理的、道徳的支柱とは何か。それは、悠久の歴史に育まれ人々に愛され大切にされてきた我が国の伝統であり文化でありそして不動の価値観である筈である。その観点から、我が国が時代とともに身に纏い折重ねられてきた種々様々なものを一つ一つ取り除き、剥ぎ取っていった時、最後に残され現れ出るものこそ、天皇という至高の存在であると確信するに至ったのである。筆者は、自らの考えを他者に押し付けようなどとは思わないが、我が国の真の価値観・支柱こそ、天皇の存在であると信じて疑わないし、それ以外のものを想像することすらできない。天皇なくして日本は日本たり得ないのだということに一人でも多く気付いてくれれば素晴らしいし、この国の未来は明るいと心より思うのである。

先年、このかけがえのない大切な宝である天皇の存在を危うくする動きや論調が多く見られ眉を顰め苛立ちも深めていたものの、秋

篠宮家に悠仁殿下がご誕生されたことを契機に同議論は一旦低調とはなっているが、水面下では同様の議論がなされているようでもある。いずれにしても同問題に対する政治の無責任と無関心には、極めて腹立たしく一国民としても抑えがたい憤懣を感じることが多々ある。政治は日々の国民の生活を安定させ、その安全と安寧を守る責任はあるが、当然に我が国の歴史と未来にも大きな責任を負っている筈である。我が国柄を大切に思うならば、皇統の維持や皇室の安泰を図ることは政治の果たすべき大きな責任の一つである。かつて上皇陛下が日々ご高齢を押して国事に奔走され、今またコロナ禍や次々と降りかかる異常気象による天災に御心を痛めながらも国民に慈愛の眼差しをお向けになられている新天皇のお姿を見るにつけ、現代の『新井白石』出でよと祈らぬ日はない。

略　歴

地球環境改革再生機構顧問　武田壽一

防衛大学校卒業
海上自衛隊幹部候補生学校卒業
ゆうべつ艦長
第５護衛隊司令
海上幕僚監部防衛課長
第４護衛隊群司令
海上幕僚監部調査部長
自衛艦隊司令部幕僚長
大湊地方総監
海上自衛隊幹部学校長
呉地方総監
住友商事顧問
現職